

演 題 名 笑顔で食事を楽しめるように

施 設 名 ケアセンターけやき

発 表 者 ○関口 翔(介護福祉士)
河井 ともみ(看護師) 松崎 裕統(言語聴覚士)

概 要

【はじめに】

入所した当初は周りに興味を示さず、覚醒にムラがあり、ウトウト居眠りをしている事が多くあった。失語症のため、コミュニケーションは表情や動作でyes・noを確認、促せば単語を発するのみ。栄養は入院中と同様の3食経管栄養で、経口からは少量のゼリーを摂取。しかし、他のご利用者が食事や飲み物を召し上がったりのを、羨ましそうに見ている様子がかがえた。

【症例紹介】

77歳 女性 要介護5

既往歴：脳梗塞、高次脳機能障害、失語症、慢性うっ血性心不全、2型糖尿病、胃瘻造設

脳梗塞後の高次脳機能障害、失語症、摂食障害、右片麻痺に対してのリハビリ目的で竹川病院に入院。以前、暮らしていたサ高住に戻るには難しく、家族の希望でケアセンターけやきに入所となる。

【ケア計画】ケアセンターけやき訪問看護STによる嚥下機能の評価を行い、とろみの調整や食事の姿勢についてアドバイスをもらい、また、日中の生活リズムづくりとして体操や好きな歌を歌ったりして、起きている時間を増やすことにより活動量を増加を促すことができた。

2型糖尿病もあり、竹川病院の主治医とも連携し、経管栄養剤の量を調整し、血糖コントロールをインスリンから経口血糖降下剤への変更を行う。

【経過】

経口からの食事を3食に増やとますます活発になり、車椅子を自走しフロアを散歩されるようになった。また、発語も増え、最初は領いたり単語を発する程度だったが、今では職員や、他のご利用者とは会話するようになり、笑顔を輝かせている姿が多く見られるようになった。

【結果】

入所後は3食経管栄養だったが、多職種でアプローチを重ねることで、ご本人の食事への意欲を高め、経口摂取ができるようになった。

【考察】

食事を召し上がりたいとご本人が強く希望し、チームで検討、アプローチを続ける事で、「美味しい」と自ら言葉を発し、笑顔で食事を楽しむ事ができるようになった。